

巻頭写真 粟津湖底遺跡の縄文時代早期のクリ遺体群 (The *Castanea crenata* fossil assemblage of the Earliest Jomon Period at the Awazu-kotei Site)

粟津湖底遺跡は、滋賀県大津市粟津の沖約300mの琵琶湖底に位置する、縄文時代中期の貝塚および早期のいわゆるクリ塚を中心とする複合遺跡である。1991~1992年に水資源開発公団施行南湖粟津航路浚渫工事に伴って発掘調査され、縄文中期貝塚が動物遺体と植物遺体の互層からなることが見出され、生業の季節性を復元できるものとして注目された。さらに、ここに示した縄文早期のいわゆるクリ塚は、クリのほかヒョウタンなど人間によって利用された植物遺体や多量の編み物・木製品群を含むもので、日本では最古級の植物遺体・遺物包含層として注目された。写真1は、湖水面下約3mのマウンド状の発掘面で、左手から右手前に縄文早期の溝状の谷が見出され、数人が集まるあたりでいわゆるクリ塚が発見された。写真2はその断面で、礫層を挟んで上下に2層のクリなどの植物遺体が密集する灰色シルト層が見られる。クリやヒョウタンの加速器放射性炭素年代は約9200~9600年前と測定された。クリの遺体については本誌の南木睦彦氏の論文に詳しい。

文献 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会編。1993。南湖粟津航路(2)浚渫工事に伴う発掘調査概要報告書—粟津湖底遺跡。119 pp. (辻 誠一郎 Sei-ichiro TSUJI)

